

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870800964		
法人名	株式会社ジョイ		
事業所名	グループホーム ハッピージョイ		
所在地	兵庫県神戸市垂水区桃山台7丁目5-10		
自己評価作成日	平成28年5月23日	評価結果市町村受理日	平成28年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成25年8月に開設10年を迎え、開設当初にご入居された利用者は重度化されてきているが、当施設でのご入居を継続できるように、主治医の往診以外にも精神科・眼科・皮膚科・歯科・耳鼻咽喉科等に往診に来て頂けるように体制を整えている。介護職員への身体的負担を軽減するために、特殊浴槽や介護用リフトを導入している。
敷地内の庭の一角に畑を作り、夏野菜、さつまいも、大根等季節の野菜作りを行っている。水やりや収穫は、利用者にも手伝って頂き、日々の成長を楽しんでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosvoCd=2870800964-00
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館 6階		
訪問調査日	平成28年6月24日		

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設13年目を迎える事業所は、当初から高齢化・重度化・終末期の対応を見据えた建物構造や設備等、配慮がされている。法人理念でも「わが家のように、家族のようなケアをめざし..」を掲げて、アットホームな環境の中で穏やかな生活が窺える。医療体制でも24時間対応できることから、重度化や終末期の対応でも安心感がある。家族の声や評価でも満足度の高さが窺える。事業所敷地内にある花壇や家庭菜園は、花づくりや季節の野菜作り等で利用者の日常的な外出の機会や収穫の楽しみにもなっている。家族の支援もあり、事業所の玄関や随所に季節の生花が見られ、利用者の生活感や季節感に寄与している。今後はさらなるサービスの向上に「目標達成計画」の取り組みにも期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の元で可能な限り自立に向けての個別ケアを行い、終末ケアまで受け入れる事を基本方針としている。	①住む人の気持ちを大切に ②日常生活の全てがリハビリテーション ③家族のようなケアをめざす この3つの理念をもとに、最初から見取りの体制でゆったりスペースの事業所である。法人の理念をもとに、丁寧に、また言葉遣いにも配慮した、日々のケアを、管理者は職員とともに実践している。理念についての定期的な会議や共有に向けての取り組みの記録は確認できなかった。	地域密着型サービスでは、事業所としての理念を創り、独自の目標をもとに、その内容について定期的に共有するための場は必要と思われる。管理者はじめ職員は誠実にケアを実践しているが、理念について確認するための話し合いの場や実践にむけての具体的な取り組みが求められる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事(公園掃除、地域の盆踊り)に参加、交流を図っている。 散歩や近隣のスーパーに買い物に行く際に、ご近所の方と挨拶をするなど普段から交流を持っている。 毎年近隣の中学校からトライやるウィークの受け入れをしている。 ご家族、地域の方からゴミ袋やナイロン袋等を頂くことがある。	地元には老人会がなく、事業所で開催する敬老会や納涼祭に地元の方々もご家族と一緒に誘っている。また、近隣の公園の清掃や草取りを実施している。27年10月に実施された、広域での避難訓練では、つつじヶ丘小学校への避難に参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の方への対応についての質問に、専門施設として具体的な支援方法等をお答えしている。 地域ケア会議等へ参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での活動や取り組み等の報告、地域との関わり方、困っている事や要望等を議題に挙げて相談意見やアイデアを頂いている。	2か月ごとの運営推進会議には、その都度利用者も誘い、ご家族や地域包括支援センターの職員や民生委員、自治会からの参加をいただき実施している。外出の機会を増やしてほしいなどの要望を検討し対応している事例が確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	垂水区グループホーム連絡会に時々出席する。 神戸市介護保険課の担当の方と情報交換を行い、日々のケアに生かしている。	運営推進会議で、あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)との情報交換、またそれらをもとにした協力・連携の事例が確認できた。	

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような行為が身体拘束に該当するかを廊下や更衣室に掲示している。 毎年1回は身体拘束についての職員研修を行い、身体拘束排除に向けての取り組んでいる。	身体拘束はしない方針であるが、夜間帯での転倒された事例により、ご家族の同意書をいただき、やむなく一部対応している。定期的に対応を検討し、利用者のパターンをつかんで職員で相談しながら対応している。 研修をするだけでなく、具体的内容について、事務所の壁に掲示して目につくようにして意識している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎年高齢者虐待についての職員研修を行っている。 日々の業務での言葉遣いや対応にも注意を払っている。 職員間でもお互いに注意を払っている。	管理者は、職員研修を行い待遇面では、食事や休憩時間をできるだけきちんととるように配慮している。体調不良の職員についての対応も柔軟に行っており、夜間帯の急変時についても、24時間体制での連携をとることで、不安を軽減している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について職員会議で学ぶ機会を設けている。 制度を活用されている利用者も数名入居されている。	成年後見制度を利用している利用者が2人おられる。また、日常生活自立支援制度についても3人の利用があり、相談中も1人で、金銭管理については日ごろより密に連絡をとりながら、利用状況等を連絡している。 パンフレットを事務所に置いている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に、契約内容の説明をし、納得して頂いた上で、利用契約を行っている。 契約後においても、疑問等がある場合はその都度、管理者が説明をしている。	この1年で7名の契約があり、その都度、自宅、入院先などそれぞれの状況に応じて、場所は相談して決めている。契約書の説明はもちろん、重度化した場合の対応や、緊急時、急変時の連絡先や対応についても、専用の用紙を作成し、説明の上同意をもらっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度の家族会や納涼祭、敬老会等の行事に参加される際や、面会時電話等でも要望を伺い意見を反映している。	毎年3月の最終日曜日に家族会を開催している。そこでご家族からの意見や要望などを聞いている。納涼祭、敬老会、レクやお茶の時間について、食事やおやつについてなど、多岐にわたり意見を伺い対応策を検討し対応している。2、3月ころは、インフルエンザの時期で、体調変化も予想される時期のため、緊急連絡先の確認を行った。また、外出の機会を増やしてほしいとの要望についても、職員で検討しできるだけ、増やすよう対応している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員へのアンケートを行い、意見を収集している。 日々相談や提案を聞き、月に一度行われる職員会議で検討し意見を反映している。	職員への定期的なアンケート及び、面談を年1回実施して、直接話を聞く機会をつくり話をしている。日頃からも、職員の得意分野を業務に活かせるよう工夫もしている。出入り口のガラスドアには、絵の得意な職員が季節に応じて楽しい絵をカラフルに描いて、生活の場を明るくしている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間のコミュニケーションとチームワークを大切にしている。 特殊浴槽や車椅子用体重計、介護用リフトを導入し、利用者の身体の状態に合わせて介護者の負担軽減に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修やその他の研修に参加し、フロアリーダーを中心に介護指導を行っている。 研修で学んだ事の報告、話し合いをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	垂水区グループホーム連絡会に参加し他施設の良い面を取り入れて、自施設のサービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時面談時に、イメージしやすいように施設入所について説明や要望の聞き取りを行っている。 入所後は、出来るだけ早くなじんで頂けるように常に声掛けをし、不安を取り除くように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面談時に、家族の希望、要望の聞き取りをしっかりと行っている。 入所後も要望の聞き取りを継続し、家族との認識合わせを行い信頼を築いていけるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	諸事情により、すぐにでも入所したいとの希望の方の受け入れで、主治医との診療情報提供書のやり取りや、担当ケアマネと連携し1週間以内の受け入れ(入所)に至ったケースがある。 特養入所待ちをされている方の受け入れも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スーパーへの買い出し、食器洗い、洗濯物干し、掃除機かけ等出来る事は職員と一緒にいき、役割をもって頂いている。		

自己	者第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	納涼祭、敬老会等のイベント事の際に家族にボランティア協力(お手伝い)をお願いしている。 日々の生活の場であるリビングでイベントを行う為テーブルや椅子のセッティング、浴衣の着付け、お花などをいけて頂く等お手伝いをして頂いている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	敬老会では家族をお招きし、昼食会を行っている。納涼祭等のイベント事を企画し、来所して頂ける機会作りをしている。 日常的には、気軽に友人知人の方にも来所して頂いている。	馴染みのお寺さんや教会のシスターの来訪がある。ご家族やお孫さん、ひ孫さんも、来訪され話などして過ごされている。年賀状や暑中見舞い等の投函の支援もしている。ご家族とお墓参りに行かれる利用者もおられる。昔のご家族との写真をみながら話をして、お元気だったころの思い出話を聞く時間もつづけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝利用者全員でラジオ体操を行い、普段から顔馴染みになって頂いている。 定期的に合同レクリエーションを企画し、利用者間の交流を深められる機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後ハガキや電話で近況を知らせて下さる家族もいる。 他施設に移られた後に、不穩時の対処法について相談の電話があり、当施設での対応方法をお話し、他施設で対処する際の参考にして頂いたケースがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意思を尊重し援助している。 心身の状況を考慮し、最善の方法で思いに添うように支援している。	日々のケアの中や生活記録によりその思いや意向を把握するように努めているが、いずれも口頭でのことで記録の拡充が望まれる。生活の場であるグループホームでの暮らしの中で、会話や動きなど日々の生活の中での言葉や行動など本人の思いや希望要望などを記録し、職員で共有することは重要なことであり、介護計画にも結び付くことである。	一人ひとりの暮らしや思い意向はみな違い、それぞれの思いも心身の状況の変化等により変わる、その時々々の思いや希望等をいかに把握するかを工夫し、職員ご家族とも共有してほしい。今後の取組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や友人家族から情報を頂き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々生活する中での表情、行動、言動、利用者間の会話など観察し把握に努めている。		

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員、家族、関係者等での話し合いやモニタリング等で意見を出し合って作成している。	利用者のより良い暮らしを考えて、本人、家族の意見を含めた介護計画を作成している。日々のケアの記録と家族からの要望などいつ聞いたかなどの記録、主治医からの指示などが個別に記録されており、介護計画作成に関して話し合いを実施した記録が明瞭とは言い難かった。本人の思いや家族からのコメント、職員からの情報等を集めて、より現状に即した介護計画を作成されることが望まれる。それぞれ個別情報はあるので、書類等のファイルの方法や介護計画作成にあたっての会議記録を残されるとより良くなると思われる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録や日誌を記入し、職員間で情報を共有している。 利用者の心身の状態変化がある場合は、より密な情報共有を行い、介護方法についての足並みをそろえている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージや精神科、眼科、皮膚科、歯科、耳鼻科等も必要がある場合は、往診に来て頂ける体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	桃山台7丁目自治会の行事(公園掃除、盆踊り等)に参加したり、ボランティアさんとの散歩を通して、本人の力を引き出せるよう支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医への受診を希望されたり往診を希望される方は、入居後も引き続き利用して頂けるように支援している。 必要に応じて24時間対応の医療を受けられる体制をとっている。	入居以前よりのかかりつけ医や、総合病院に定期的に受診される利用者もあり、それぞれに本人家族の意向を優先し対応している。入居を機会にかかりつけ医の変更等についても、緊急時、急変時等の対応ができるよう、体制を整えて説明している。家族の付添がどうしてもできない場合は、職員が受診支援の対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職や看護師から主治医や訪問看護へ病状報告を行っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し、病院へ渡している。入院中にお見舞いで病院に行った時などに病棟ナースや地域連携室の担当相談員と情報交換を行い、退院後の受け入れ体制を整えている。	入院、退院、入院中について、それぞれに情報の提供、共有はもちろん、お見舞いにもうかがっている。退院が決まったら、退院後の暮らしについて、本人、家族、医療機関と十分な情報共有と共に、退院後の体調変化等についても相談を継続して行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設においての理念が「最後の住居」であるように職員はターミナルケアを意識して共有している。24時間対応による医療の体制も整えている。	重度化、終末期にむけての法人、事業所としての指針が文書化され、周知されている。利用者家族へは、契約時に説明を行っている。また、終末期が近づいてきたら、主治医、家族とも十は話し合いを行い、今後の対応について確認、同意書も頂き、対応している。さらに管理者は、同意書や説明内容についても改良を繰り返しより良い、終末期を安心して迎えていただけるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、消防訓練を実施している。	防災訓練は5月、10月に職員で協力して実施している。あらゆる災害を想定して備蓄品も備えている。近隣住民との連携が今からの課題ではあるが、運営推進会議等のメンバーにもご協力を仰ぐなど、近隣住民との連携も今後の取り組みとして検討している。また、避難訓練では、緊急連絡網の確認を実施し、災害時に活用することも検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った言葉掛けや対応をし、プライバシーは厳守している。	排泄介助や入浴介助では、できるだけ同性介助を心がけているが、やむを得ない場合もある。2月に職員研修を実施し、声掛けの工夫や、入浴時にも個々の心身の状況に応じて声かけに配慮したり、誘導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも利用者自身で出来る事や選択は、本人の思いに添えるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて過ごして頂いている。レクリエーション、壁画作成等を行い、作った作品を掲示し来客の方々に見て頂いている。		

自己	者第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度理容師に来ていただいている。 ご自分の化粧道具で化粧されている利用者もいる。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食後に下膳していただく、テーブル拭きを手伝って頂くなどしている。 たこ焼き、ホットケーキ作りやケーキ作り(デコレーションのみ)等おやつ作りをして楽しませている。	食事は配食(セントラルキッチン)を活用して、都度事業所の台所で温め・盛り付け・加工等をしている。家庭菜園で収穫した野菜等も調理して季節の味覚を楽しんでもらう。月1回程度は利用者の希望を反映したおやつ作りも楽しんでもらう。利用者は下膳や食器洗い・テーブル拭きなど出来ることをしてもらおう。	食事の調理等は利用者と共にする機会が少ないので、行事食やおやつ作り等の機会を増やすことが望まれる。職員の休息などから、利用者と共に食事をする機会が少ないので、交代で対応する等の工夫が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は記録している。 水分摂取量には特に注意を払っている。 利用者の租借や嚥下の状態に合わせて刻んだり、ペースト状にしたり、とろみをつけたり工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合ったトイレ誘導を行っている。 個々の状態に合わせて、布パンツ・紙パンツ・テープ止めオムツ等使用して頂いている。	一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握して、トイレでの排泄の自立に向けて支援をしている。利用者の状態で紙パンツでパット使用者が多いが、布パンツで自立されている人もいる。トイレは各居室に備えられているので気兼ねなく安心感がある。プライバシーの配慮では誘導時の言葉使いには気を付けている。(お部屋に行きましょうか・・・)	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排便確認し、看護師と相談しながら便秘予防と対応を行っている。 散歩・体操・水分量に気を付けている。		

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の意思、タイミングに出来る限りそうように入浴して頂いている。 ゆず湯や菖蒲湯など季節湯を取り入れている。 炭酸泉をとりに入れている。	入浴の支援は基本的には週3回・午前中に行っている。入浴拒否される人には、タイミングを見た誘導やシャワー浴での対応に努めている。浴槽は個浴での対応であるが、重度化に対応した特殊浴槽も備えている。炭酸泉の設備もあり、温泉気分や季節湯(柚子湯・菖蒲湯等)も楽しんでもらう。入浴剤等は皮膚疾患の人もいるので避けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の心身の状態に応じてお昼寝をして頂いたり、夜間は安心して入眠して頂けるよう職員がそばにいたり、声掛けするようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師に確認。受診、往診後にこれまでの処方と変更がある場合は、ファイル(薬せん)を確認し、誤薬に注意している。 又、変更後数日は心身の状態の変化に注意し、医師・看護師に心身の状態の変化を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった時間、楽しみ方をさせていただいている。 新聞たたみ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、テレビ(歌番組)等		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員やボランティアと一緒に近所を散歩したり、家族と外出を楽しまれている。	天気の良い日は日常的には近隣のつつじヶ丘公園に散歩に出かける。(花壇や桜の花等が楽しめる)週1回は散歩ボランティアの支援もある。事業所の敷地内には花壇や家庭菜園もあり、水やりや収穫での外出の機会として楽しんでもらう。天気の悪い日は事業所内3ユニットを移動して交流もしている。季節ごとには外出行事も計画して、帰りには外食も楽しんでもらう。(垂水健康公園・桜の花見・菊花展・つつじヶ丘夏祭り・盆踊り大会等)家族支援での自宅泊・墓参り・外食等をされる人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おやつ買い出しに、職員と一緒に連れて行っている。 スーパーへ行く道中のちょっとした緊張(お財布を落とさないように)や、スーパーで食べたいおやつを選ぶ→レジに並ぶ→支払いをする→お釣りを受け取る等の一連の流れを体験して頂いている。		

自己 者第	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを利用者から家族へ書いて頂いている。 直筆でかける方は書いて頂き、書けない方へは職員が代筆している。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節に合わせた作品や花などを飾っている。 ホールは広く外からの光も適度に入る。	地上3階建ての事業所では、1階の玄関・エレベーターホール、2・3階のエレベーターホールには、手作りの作品展示やソファも置かれている。入口の自動ドア(ガラス)には、職員が季節感のあるイラストを施して、明るく楽しいイメージで迎えてくれる。リビングダイニングのスペースは広く、テーブル・大型のソファや畳のスペースもありゆったりとくつろげる。共用スペースには季節に合わせた作品や記念写真・花などを飾っている。窓は大きく開放感のある風景や陽ざしも入る。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルなどを設置し、利用者が自由にくつろげるスペースを作っている。 気の合った他の階の利用者の元へ行き過ごすこともある。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたダンスやテレビ、装飾品などを持ち込まれている。	居室は洋室でスペースもゆったりとしている。設えはベッド・整理ダンス・収納棚・空調機・カーテン・緊急コール・洗面化粧台付バリアフリートイレ等が備え付けられている。窓は掃出しでベランダにも出られるので、景観もよく明るく安全対策でも配慮がある。使い慣れた家具やテレビ・仏壇・写真・置物などが持ち込まれて、その人らしい居心地よく過ごせる居室空間となっている。一部の人には介護用リフトも導入されて、安全・安心のケアにも努めている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全てバリアフリーになっており、車椅子の方でもエレベーターで自由に他の階に行ってもらえるようにエレベーターを解放している。		